

伊方原発を動かしては

① 規制委の審査合格は安全の保障ではない。苛酷事故が起こることは前提になっている。大地震、火山爆発--大地動乱の時代に過酷事故を起こす原発再稼働はあり得ない。複合災害=原発震災は絶対避けるべき。

③ 福島の実況・その苦しみをしながら原発の再稼働はあまりに酷すぎる。原発事故はまだ続いている！放射能放出・高濃度汚染水・1日7000人の被ばく労働。事故の様子も不明。それなのに再稼働？！福島原発災害は終わらない！12万人の避難者と帰還強要、ふるさとの喪失、汚染土の山、甲状腺ガンの異常多発。それでも再稼働？！



② 基準地震動650ガルはあまりに甘すぎる。それを遥かに超える地震は過去10年に5回も起きている。南海トラフ巨大地震・津波が差し迫り、中央構造線も直近にある伊方原発は、本来そこにあってはならないものだ。

④ 事故の際、西風に乗って放射能は全四国・瀬戸内一円に。西日本壊滅も。(福島では8割が太平洋に流れた。)放射能によってふるさとを奪われ、人も住めずミカン山は除染もできず荒れ果てる。また伊方原発には汚染水を蓄え処理することができず、瀬戸内海は死の海に。

⑤ 伊方原発3号機はウランよりさらに危険なMOX燃料。予測しえない事故が起こる危険。事故の際には、猛毒のプルトニウムが拡散。

連絡先・090-1179-11105(八木)

STOP!伊方原発・南予連絡会

⑥ 現実離れた避難計画。佐田岬半島の西半分の住民5000人はじめ、複合災害時に被ばくから免れる避難は不可能。

⑦ 使用済み核燃料の処理ができない。使用済みMOX燃料の500年間の冷却と10万年の安全保管はできるのか！誰が責任を負うのか。

⑧ 原発ゼロで電気は足りている。県民の7割が再稼働に反対。しかも原発の電気は高い。維持・対策工事費は莫大。事故が起これば対策・収束作業費、除染、賠償費用は青天井。建設費・廃炉費用も巨額。他に地元対策費、使用済み核燃料対策費、等々。

私たちは守りたい！-----

- ふるさとに育まれた命のつながり・子供たちの未来を！
- 南予の誇り・手塩のかけたミカン山を！命豊かな海を！
- 子や孫に引き継ぐ自然豊かなふるさとを！

いけないこれだけの理由